

かの時ときに
(石川啄木いしかわたくぼく)

かの時ときに 言いそびれ たる 大切たいせつの

言葉ことばは 今いまも 胸むねに のこれど

解説 函館に移住した啄木は代用教員時代の同僚の中に、橘たちばな智恵子ちえこと言う女性がいた。札幌市郊外で林檎園りんごえんを経営している方の娘である。啄木の慕情は日増しに智恵子ちえこに傾いていった。

語釈 ※かの時とき||あの時。 ※言葉||言い出す機会が無く言うべきことを言えずに終わる。(君が好きだと)

通釈 あの時に、告白出来なかった大切な言葉は今も胸の中に残っている。